



2012年度第3四半期 連結業績の概要

経営管理部長 高原 宏

2013年 2月 4日

武田薬品工業株式会社

2012年度第3四半期 連結業績



	11年度 4-12月実績 (億円)	12年度 4-12月実績 (億円)	対前期増減 (億円) (%)		為替影響除き (億円)
売上高	11,276	11,891	+ 615	<+ 5.5>	+ 703
売上総利益	8,226	8,526	+ 300	<+ 3.6>	+ 384
特殊要因(*1)除き	8,568	8,566	Δ 2	<Δ 0.0>	+ 82
一般管理販売費	3,678	4,703	+ 1,025	<+ 27.9>	+ 1,082
特殊要因(*2)除き	3,057	3,700	+ 643	<+ 21.0>	+ 697
研究開発費	1,897	2,316	+ 418	<+ 22.0>	+ 409
営業利益	2,650	1,507	Δ 1,143	<Δ 43.1>	Δ 1,108
特殊要因(*3)除き	3,615	2,553	Δ 1,062	<Δ 29.4>	Δ 1,024
経常利益	2,651	1,513	Δ 1,138	<Δ 42.9>	Δ 1,101
特別損益	176	147	Δ 30	<Δ 16.9>	Δ 30
純利益	1,606	1,389	Δ 217	<Δ 13.5>	Δ 196
特別損益、特殊要因(*4)除き	2,203	1,676	Δ 527	<Δ 23.9>	Δ 503
EBITDA (特別損益除き)	3,703	3,037	Δ 666	<Δ 18.0>	
EPS	203円	176円	Δ 28円	<Δ 13.5>	
特別損益、特殊要因(*4)除き	279円	212円	Δ 67円	<Δ 23.9>	
為替レート	USD	79円	80円	+ 1円	
	EUR	111円	102円	Δ 9円	

*1:売上総利益に係る特殊要因: 企業買収に起因する棚卸資産のステップアップ(時価評価による増加部分)の費用化

*2:一般管理販売費に係る特殊要因: 企業買収などに起因する無形固定資産償却費、のれん償却費

*3:営業利益に係る特殊要因: *1および*2

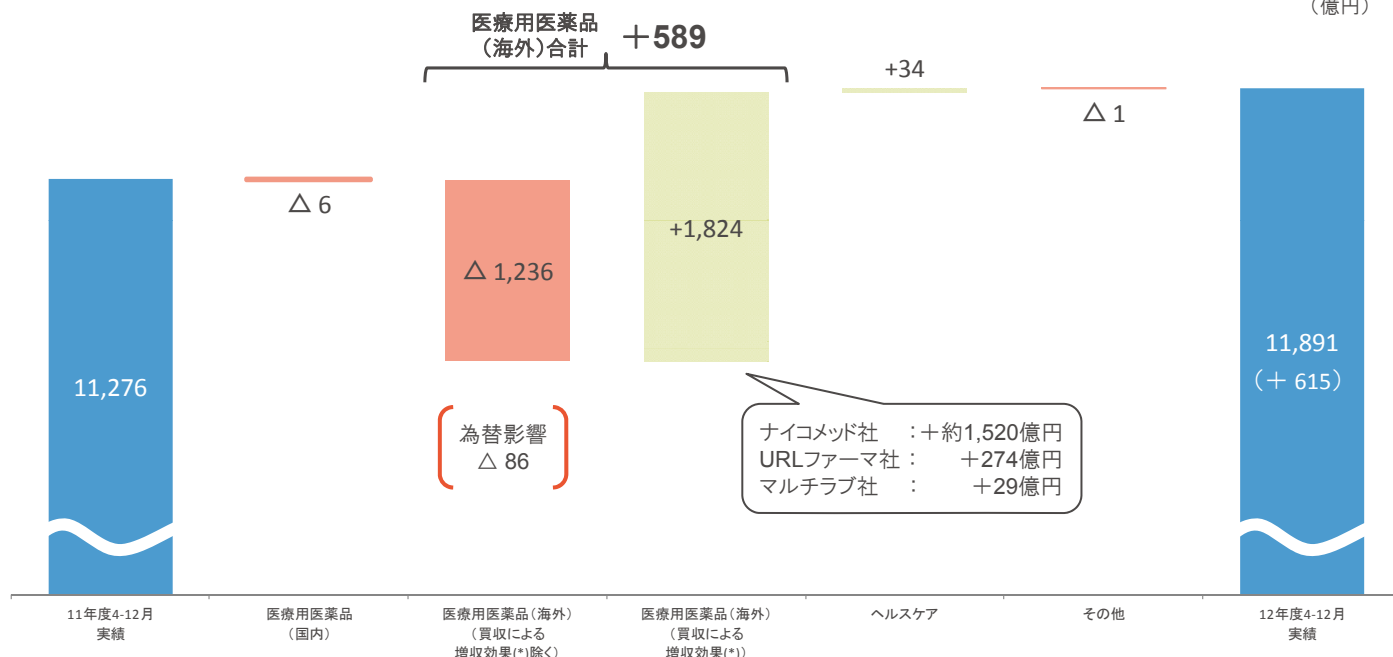
*4:純利益、EPSに係る特殊要因: *1、*2に加え、企業買収に起因する営業外費用、移転価格税制に係る還付税金

売上高の増減内訳【セグメント別】



医療用医薬品(海外)合計は**589億円の増収**
 ナイコメッド社などの買収による増収効果は約**1,824億円**

(億円)



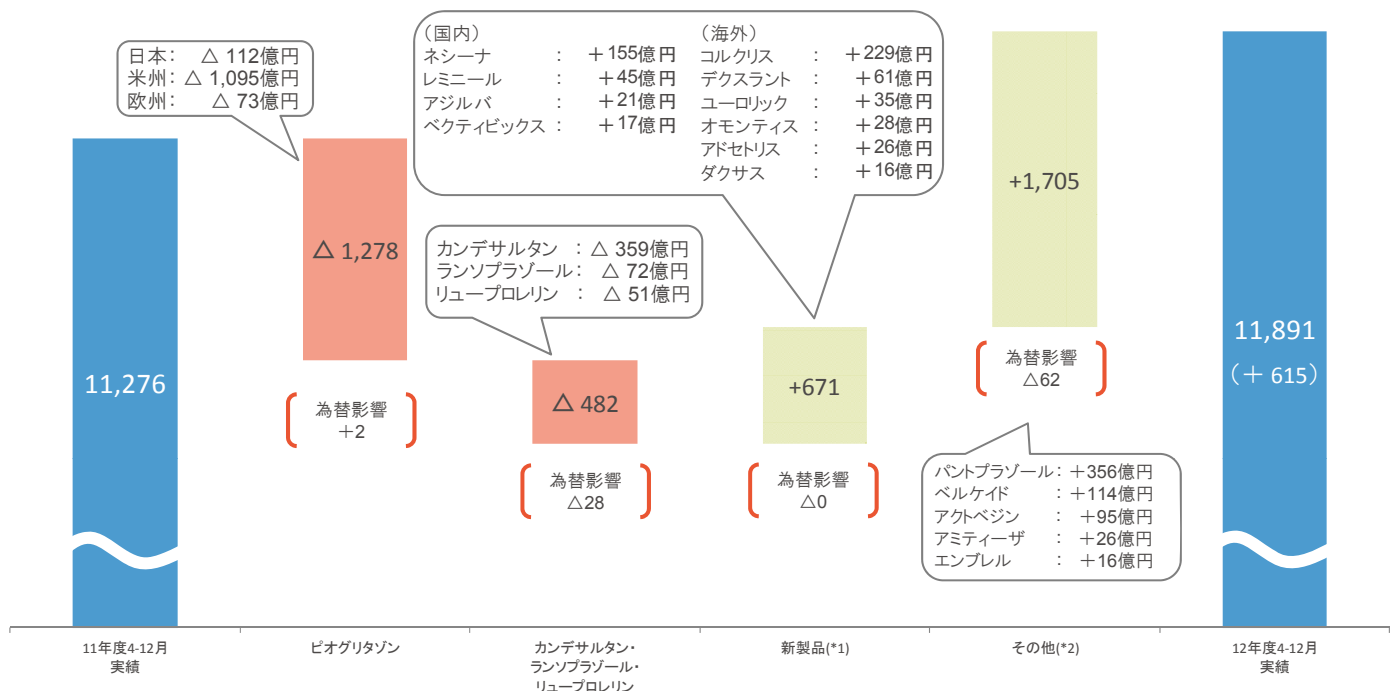
(*) : ナイコメッド社買収による増収効果 …… 12年度4月から9月の同社事業の概算売上高(買収年月 11年9月末)。11年4月から9月は非連結であるため、連結対象期間の差である12年4月から9月をもって同社の買収による増収効果としている。
 URLファーマ社買収による増収効果 …… 12年6月以降の同社事業の売上高(買収年月 12年6月)
 マルチラブ社買収による増収効果 …… 12年7月以降の同社事業の売上高(買収年月 12年7月)

売上高の増減内訳【品目別】



ピオグリタゾン、カンデサルタンなどの成熟品の減収を、ネシーナをはじめとする新製品やベルケイド等の伸長、ナイコメッド社などの買収効果によりカバーし増収

(億円)



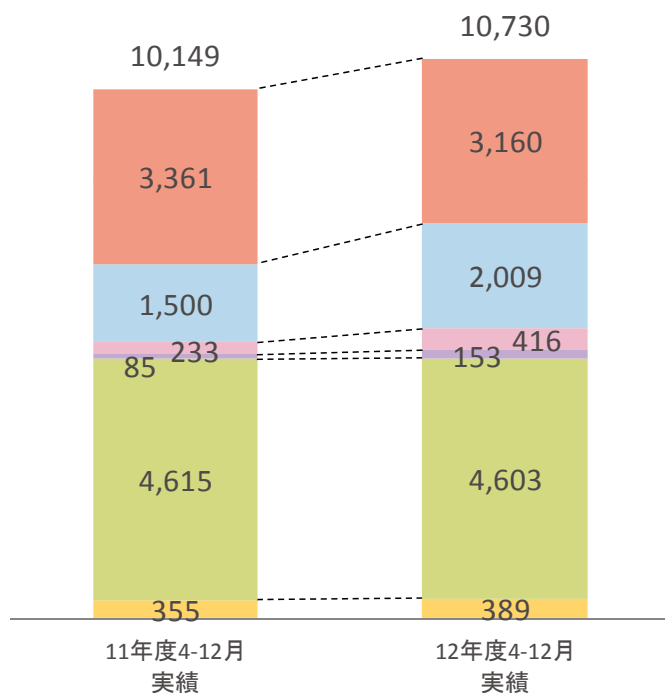
*1: 09年以降に発売した製品(既存品との合剤・剤型変更を除き、買収した会社の製品を含む)の増減
 *2: 主として11年度以降に買収した会社の新製品以外の製品による増収効果やベルケイド等の既存品の増減

医療用医薬品売上高【地域別】



特に欧州・アジア等が売上伸長を牽引

(億円)



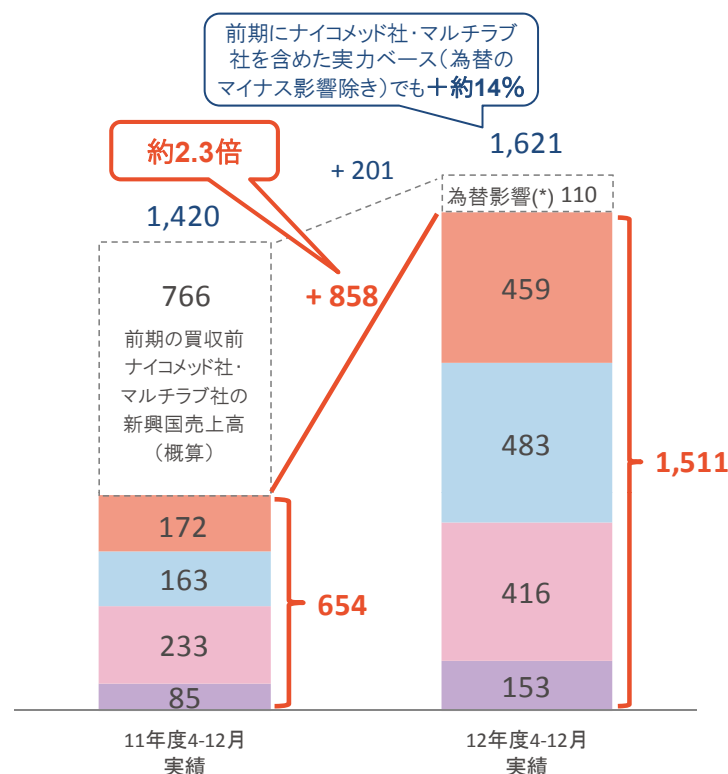
	対前期増減<増減率>	為替影響除き
医療用医薬品売上高	+581 <+5.7%>	+667 <+6.6%>
米州(中南米含む)	Δ201 <Δ6.0%>	Δ220 <Δ6.5%>
欧州(ロシア/CIS含む)	+509 <+33.9%>	+601 <+40.1%>
アジア	+183 <+78.2%>	+192 <+82.1%>
中東・大洋州・アフリカ	+68 <+79.2%>	+71 <+82.7%>
日本	Δ11 <Δ0.2%>	
知的財産権収益・役務収益	+34 <+9.7%>	+35 <+9.9%>

医療用医薬品売上高【新興国市場】



ナイコメッド社・マルチラブ社の買収効果により新興国市場での売上高は約2.3倍と大幅に伸長

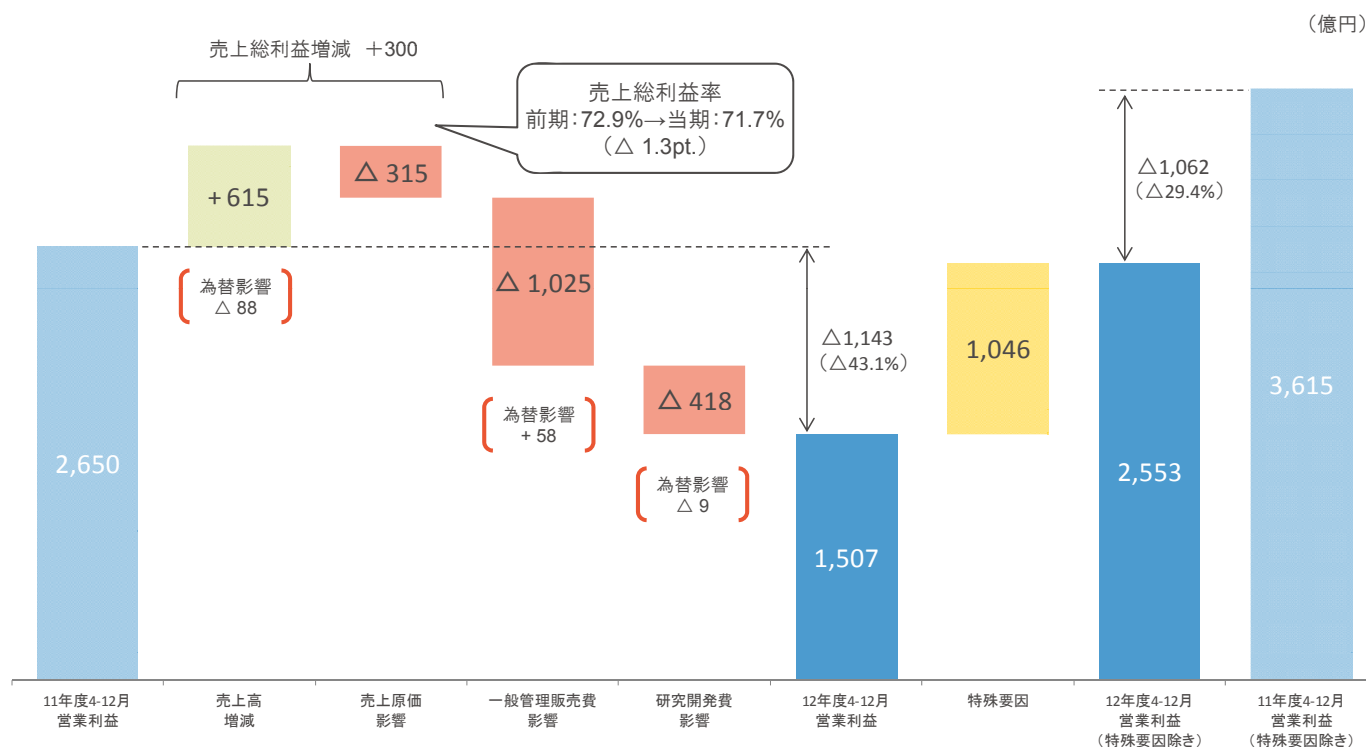
(億円)



	対前期増減<増減率>	参考:実力ベース増減率 (前期買収前売上を含み、当期の為替影響を除く)
新興国市場売上高	+858 <+131.2%>	<+14.1%>
中南米	+288 <+167.6%>	<+16.5%>
ロシア/CIS	+320 <+195.6%>	<+19.1%>
アジア	+183 <+78.2%>	<+18.2%>
中東・大洋州・アフリカ	+68 <+79.2%>	<Δ11.5%>

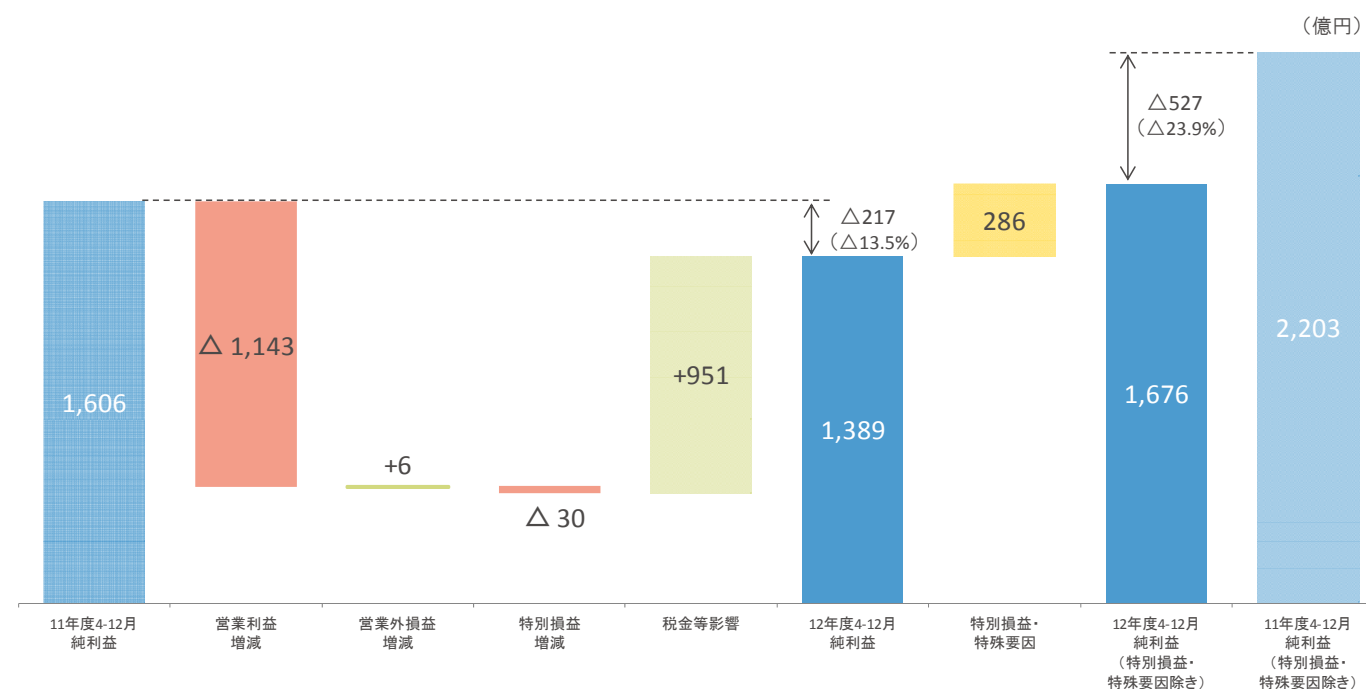
(*):ユーロから円の為替レートの変動による為替影響

営業利益の増減内訳



- 一般管理販売費の増加(損) 1,025億円: 買収に伴う発生費用の増加や、のれん・無形固定資産償却費の増加
- 研究開発費の増加(損) 418億円: 開発後期のパイプラインを中心とした開発費の増加

純利益の増減内訳



- 特別損益の減少 △30億円: 11年度…遊休土地売却益 176億円
12年度…投資有価証券の売却益170億円、移転価格税制に係る法人税等の還付加算金(益)116億円、
海外子会社の事業構造再編費用(損)140億円
- 税金等の減少(益) +951億円: 12年度…移転価格税制に係る還付税金(益)456億円

キャッシュフローの状況



	11年度 4-12月実績 (億円)	12年度 4-12月実績 (億円)	(参考)11年度 4-3月実績 (億円)
営業活動によるCF	2,482	2,228	3,366
税金等調整前当期純利益	2,827	1,660	2,525
減価償却費(無形固定資産償却費を含む)	900	1,213	1,280
のれん償却費	141	246	222
運転資金増減	△301	△368	647
法人税等の支払額(還付税金を含む)	△1,289	272	△1,521
投資活動によるCF	△10,723	△1,287	△10,940
有形固定資産の取得による支出	△497	△545	△619
子会社株式の取得による支出	△10,314	△862	△10,400
財務活動によるCF	4,049	△1,402	3,938
短期借入金の純増減額	5,406	△2,430	2,398
社債の発行による収入	—	2,380	1,896
配当金の支払額	△1,326	△1,324	△1,420
現金及び現金同等物にかかる換算差額	△699	128	△549
当期のCF	△4,891	△333	△4,185
現金及び現金同等物期末残高	3,836	4,209	4,542

引き続き3,000億円レベルの研究開発投資を維持した上で、着実に負債を返済し、安定的な配当方針を維持。

(注) 第3四半期のキャッシュフロー計算書は任意開示のため、監査人のレビュー手続きは踏んでおりません。

2012年度 連結業績の見通し



売上・利益ともに10月公表(当初公表と同じ)と変更なし

	11年度	12年度		対前期増減	
	年間実績 (億円)	4-12月実績 (億円)	年間予想 (億円)	年間 (億円)	<%>
売上高	15,089	11,891	15,500	+ 411	<+ 2.7>
研究開発費	2,819	2,316	3,100	+ 281	<+ 10.0>
営業利益	2,650	1,507	1,600	△ 1,050	<△ 39.6>
特 殊 要 因 (*1) 除 き	4,145	2,553	3,050	△ 1,095	<△ 26.4>
経常利益	2,703	1,513	1,500	△ 1,203	<△ 44.5>
特別損益	△ 179	147	550	+ 729	—
純利益	1,242	1,389	1,550	+ 308	<+ 24.8>
特別損益、特殊要因(*2) 除 き	2,482	1,676	1,900	△ 582	<△ 23.4>
EBITDA (特別損益除き)	4,226	3,037	3,450	△ 776	<△ 18.4>
EPS	157円	176円	196円	+ 39円	<+ 24.8>
特別損益、特殊要因(*2) 除 き	314円	212円	241円	△ 74円	<△ 23.4>
為替レート	USD	79円	80円	+ 2円	
	EUR	109円	102円		
			82円	*3	△ 4円
			105円		

*1: 営業利益に係る特殊要因: 企業買収などに起因する無形固定資産償却費、のれん償却費および棚卸資産のステッ
プアップ(時価評価による増加部分)の費用化

*2: 純利益、EPSに係る特殊要因: *1に加え、企業買収に起因する営業外費用、移転価格税制に係る還付税金

*3: 為替レートは、10月公表のUSD80円、EUR100円からUSD82円、EUR105円に変更している

参考: 為替レート 1円変動影響	12年度(億円)	
	USD	EUR
売上高	45	40
営業利益	△3	1
純利益	1	△1



APPENDIX

| 2012年度第3四半期 連結業績の概要 | 2013年 2月 4日

武田薬品工業株式会社

2012年4月から12月に実施した企業買収の概要



買収年月	会社名	買収時点における会社概要・買収価額	効果
12年6月	URLファーマ社	資本金 : 1千米ドル 資本剰余金 : 1,870千米ドル 所在地 : 米国 ペンシルベニア州 フィラデルフィア 買収価額 : 一時金800百万米ドル 2015年以降の一定期間、業績に応じたロイヤルティを支払う	【米国における痛風領域フランチャイズの強化】 ➢ 急性期の痛風治療剤である「コルクリス」を獲得 ➢ 「コルクリス」と高尿酸血症治療剤「ユーロリック」との相乗効果を発揮 ➢ 同社後発品事業はCaraco社に譲渡することを12年12月に合意済み
12年7月	マルチラブ社	資本金 : 41,750千BRL 所在地 : ブラジル リオ・グランデ・ド・スル州 São Jerônimo 買収価額 : 一時金500百万BRL 今後、最大40百万BRLのマイルストーンを支払う可能性あり	【ブラジルにおける販売基盤の強化】 ➢ ブランドジェネリック、総合感冒薬「マルチグリップ」等のOTC製品を獲得 ➢ 高い経済成長を示している地方都市における強固な販売網を獲得 ➢ ブラジルでの医薬品売上高でトップ10に入り、多様な医療ニーズに対応
12年10月	リゴサイト社	資本金 : 10千米ドル 資本剰余金 : 1,372千米ドル 所在地 : 米国 モンタナ州 ボーズマン 買収価額 : 一時金60百万米ドル 将来、開発の進捗に応じたマイルストーンを支払う可能性あり	【グローバルなワクチン事業の強化】 ➢ 臨床開発段階にある世界で唯一のノロウイルスワクチンを獲得 ➢ ウイルス様粒子 (Virus-Like Particle: VLP) 技術の導入 ➢ RSウイルスワクチン、インフルエンザウイルスワクチン、ロタウイルスワクチンの前臨床パイプラインを獲得
12年11月	エンボイ社	資本金 : 8,000千米ドル 所在地 : 米国 フロリダ州 ジュピター 買収価額 : 一時金と将来支払う可能性のあるマイルストーンを含め最大で140百万米ドル	【創薬基盤の強化】 ➢ 疾患に関与する細胞に発現する新規創薬標的の同定を可能にする bacTRAP® 技術を獲得 ➢ パーキンソン病や統合失調症に伴う認知機能障害を対象とした中枢神経系の前臨床パイプラインを獲得

A1 | 2012年度第3四半期 連結業績の概要 | 2013年 2月 4日

武田薬品工業株式会社

医療用医薬品主要品目別売上高推移



	主要 販売地域	09年度実績 (億円)	10年度実績 (億円)	11年度実績 (億円)	11年度 4-12月実績 (億円)	12年度 4-12月実績 (億円)	対前期増減 (億円)	<%>
リュープロレリン	全世界	1,204	1,164	1,207	928	877	△ 51	<△ 5.5>
ランソプラゾール	全世界	2,161	1,336	1,221	929	856	△ 72	<△ 7.8>
カンデサルタン	全世界	2,183	2,180	2,163	1,688	1,329	△ 359	<△ 21.3>
ピオグリタゾン	全世界	3,833	3,879	2,962	2,370	1,092	△ 1,278	<△ 53.9>
エンブレ	日本	323	384	414	317	333	16	<+5.1>
ネシーナ	日本	—	16	155	102	258	155	<+151.4>
ベクティビックス	日本	—	94	172	130	147	17	<+12.8>
アミティーザ	米国	198	186	187	139	165	26	<+18.6>
ベルケイド	米国	462	508	581	425	539	114	<+26.8>
ユーロリック	米国	44	91	129	93	128	35	<+37.4>
デクスラント	米国	85	181	241	174	235	61	<+35.3>
コルクリス (*1)	米国	9	126	368	278	298	20	<+7.2>
パントプラゾール (*2)	欧州/ 新興国	1,583	1,056	826	645	565	△ 80	<△ 12.5>
アクトベジン (*2)	欧州/ 新興国	142	169	186	135	142	7	<+5.2>
カルシウム (*2)	欧州/ 新興国	141	149	157	116	110	△ 7	<△ 5.7>
タコシール (*2)	欧州/ 新興国	128	129	138	107	101	△ 6	<△ 5.7>
ダクサス (*2)	欧州/ 新興国	—	4	24	17	22	5	<+27.3>
参考: ナイコメッド社製品 計(概算) (*2) (百万ユーロ)	欧州/ 新興国	2,918	2,838	2,984	2,263	2,333	69	<+3.1>
為替レート	USD	93円	86円	79円	79円	80円	+ 1円	
	EUR	131円	113円	109円	111円	102円	△ 9円	
	参考: EUR (12月決算)	130円	116円	-	-	-	-	

*1: 12年6月に買収したURLファーマ社の製品。09年度から12年5月までは、URLファーマ社買収前のコルクリス売上高を表示している(4-3月ベースに組み替え後)。

*2: 11年9月末に買収したナイコメッド社の製品。09年度から11年9月までは、ナイコメッド社買収前の当該品目売上高を表示している(09年度及び10年度については1-12月ベース、11年度については4-3月ベースに組み替え後)。

特殊要因・特別損益の内訳



	(億円) (マイナスは益)	
特殊要因・特別損益の内訳	11年度 4-12月実績	12年度 4-12月実績
<売上原価> 棚卸資産のステップアップの費用化	342	41
URLファーマ社・マルチラブ社買収	—	41
<一般管理販売費> 無形固定資産償却費	482	759
TAP社統合	74	66
ミレニアム社買収	281	284
ナイコメッド社買収	120	344
URLファーマ社買収	—	58
<一般管理販売費> のれん償却費	141	246
ミレニアム社買収	90	91
ナイコメッド社買収	43	133
URLファーマ社買収	—	13
特殊要因が営業利益に与える影響	965	1,046
<営業外費用> 企業買収に起因する営業外費用	—	41
<特別損益>	△ 176	△ 147
投資有価証券売却益	—	△ 170
海外子会社における合理化費用	—	140
移転価格税制に係る還付加算金	—	△ 116
固定資産売却益	△ 176	—
特殊要因・特別損益が税金等調整前四半期純利益に与える影響	788	940
上記に係る税金・税効果影響	△ 192	△ 198
移転価格税制に係る還付税金	—	△ 456
特殊要因・特別損益が四半期純利益に与える影響	597	286

ダクサスは
2021年まで

2012 年まで償却
2018 年まで償却
2026 年まで償却
2030 年まで償却

2028 年まで償却
2031 年まで償却
2028 年まで償却

コルクリスは
2029年まで

うちナイコメッド社: 477



(億円)

EBITDAの内訳	11年度 4-12月実績	12年度 4-12月実績
経常利益	2,651	1,513
+ 営業利益の特殊要因：無形固定資産償却費	482	759
+ 営業利益の特殊要因：のれん償却費	141	246
+ 減価償却費(特殊要因除き)	418	455
+ 支払利息	12	23
+ その他	—	41
EBITDA(特別損益除き)	3,703	3,037



2012年度第3四半期 研究開発におけるアップデート

CMSOオフィス長
三好 集

2013年2月4日

武田薬品工業株式会社

直近のステージアップ（2012年11月1日以降）



			P-1	P-2	P-3	申請	承認
NESINA® (SYR-322)	糖尿病	米国				→	
OSENI® (SYR-322 / PIO)	糖尿病(ピオグリタゾンとの合剤)	米国				→	
KAZANO® (SYR-322 / MET)	糖尿病(メトホルミンとの合剤)	米国				→	
ベネット®	骨粗鬆症(月1回投与製剤)	日本				→	
ADCETRIS®	ホジキンリンパ腫(フロントライン適応)	欧州	→	→			
ADCETRIS®	成熟型T細胞性リンパ腫 (フロントライン適応)	欧州	→	→			

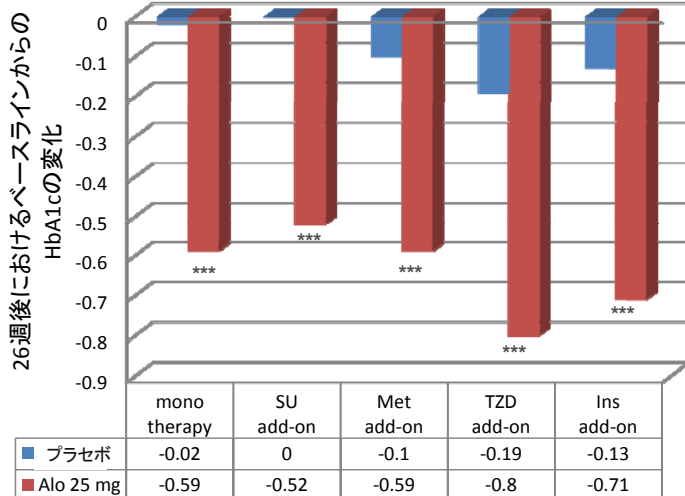
米国においてNESINA (alogliptin)ファミリーの販売許可を取得



本製品の特徴

- 最近急性冠症候群を発症した患者さんを対象としたプロスペクティブ・アウトカム試験 (EXAMINE試験) により、心血管系リスクに対する評価データを有する初のDPP-4阻害薬
- 単剤「NESINA」、ピオグリタゾンとの合剤「OSENİ」、メトホルミンとの合剤「KAZANO」として、販売許可を取得
- 「OSENİ」は、米国で承認されたはじめてのDPP-4阻害薬とチアゾリジン誘導体との合剤

主要データ(P-3)



*** P<0.001 vs. placebo

米国以外の地域では...

- 欧州および中国、ブラジルなどの複数の新興国において申請中
- 日本では、単剤「ネシーナ」(2010年4月)およびピオグリタゾンとの合剤「リオベル」(2011年7月)は承認済み

MLN9708 (ixazomib citrate) -ASH 2012において発表されたデータ-

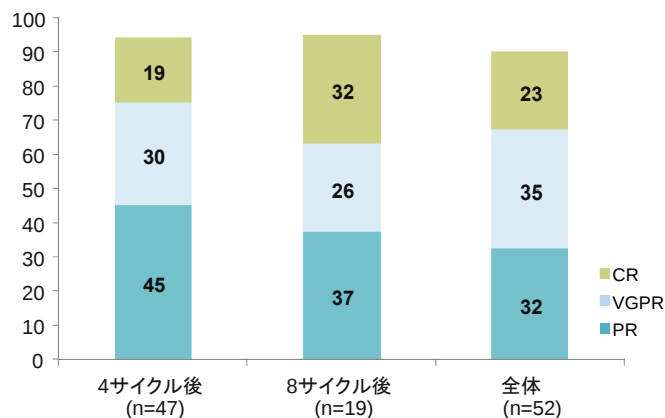


開発状況

- P-3試験を実施中の初の経口プロテアソーム阻害剤
- 再発・難治性の多発性骨髄腫および多発性骨髄腫のフロントライン適応をターゲットとし、すべて経口剤の組み合わせで行う治療レジメンで開発中
- 週1回投与
- 再発・難治性の多発性骨髄腫、および再発・難治性のALアミロイドーシスを対象としたP-3試験を含め、申請に向けた臨床試験を実施中
- 多発性骨髄腫のフロントライン適応をターゲットとしたP-3試験を含め、今後さらに5本の試験実施を計画
- タケダがグローバルでの開発・販売権利を保有

P-1/2データ: 多発性骨髄腫 (フロントライン適応)

MLN9807+レナリドマイド+デキサメタゾン併用による奏効例のまとめ(中間報告)



- 12サイクル後の評価可能な3例のうち、2例が完全寛解、1例が最良部分寛解を達成

ADCETRIS (brentuximab vedotin)



-ASH 2012において発表されたデータ-

開発状況

- Seattle Genetics社から導入したADC(抗体薬物複合体)(タケダは米国・カナダ以外の地域で権利を保有)
- 欧州において、2012年10月に再発・難治性のホジキンリンパ腫および再発・難治性の全身性未分化大細胞リンパ腫を適応症として販売許可を取得
- CD30が陽性である他の腫瘍にも効果を有する可能性

P-1データ: ホジキンリンパ腫 (フロントライン適応)

	ADCETRIS + ABVD*	ADCETRIS + AVD**
6サイクル投与後の完全寛解率	95%	96%
肺毒性 (すべてのグレード)	44%	0

- 進行性ホジキンリンパ腫におけるABVDでは、完全寛解率は70-80%、肺毒性は10-25%程度
- ADCETRIS+AVDにおいて、最も見られた副作用は吐き気(85%)、好中球減少(77%)、末梢感覚神経障害(73%)

P-1データ: 成熟型T細胞性リンパ腫 (フロントライン適応)

	ADCETRIS + CHP†
客観的反応	100%
完全寛解 部分寛解	88% 12%

- 様々な成熟型T細胞リンパ腫におけるアントラサイクリン系薬剤を含めたフロントライン(CHOP^{††}等)における客観的反応は76-88%、完全寛解率は39%-53%
- 最も見られた副作用は吐き気(62%)、末梢感覚神経障害(62%)、下痢(58%)、疲労(54%)

* アドリアマイシン+ブレオマイシン+ビンブラスチン+ダカルバジン

** アドリアマイシン+ビンブラスチン+ダカルバジン

† シクロフォスファミド+ドキソルビシン+プレドニゾン

†† シクロフォスファミド+ドキソルビシン+オンコビン+プレドニゾン

Envoy社の買収



envoyTM
THERAPEUTICS

ある疾患に関係する細胞型に非常に
選択的に発現する新規創薬標的の
同定を可能にする技術を獲得

パーキンソン病や統合失調症に伴う認知機能
障害を対象としたプログラムをはじめ、様々な
疾患での革新的な前臨床のパイプラインを獲得

Envoy社が保有するbacTRAP[®] 技術

- 生体内の特定の細胞型において作られたタンパク質を、細胞を分離することなく同定することが可能
- 多数の細胞型が混在している脳の組織では、特に本技術が効果を発揮
- より有効性、安全性に優れた医薬品を開発するために、新規創薬標的の同定、および既存の薬物標的の最適化が可能



[染色されたマウス脳内の
タンパク質]

地域別パイプライン承認年度見通し



	FY12	FY13	FY14	FY15-FY16
JP	LOTRIGA (TAK-085)	ATL-962	SYR-472 TAK-536/CCB ² SGN-35	TAK-875 MLN9708 TAK-700 MLN0002 TAK-385 TAK-816
US	NESINA (SYR-322) OSEN (SYR-322/PIO ³) KAZANO (SYR-322/MET ⁴)	Lu AA21004	TAK-700 MLN0002	TAK-875 MLN9708 MLN8237
EU	ADCETRIS (SGN-35) REVESTIVE (teduglutide) RIENSO (ferumoxytol)	SYR-322 SYR-322/PIO ³ SYR-322/MET ⁴	Lurasidone Peginesatide TAK-491/CLD ⁵ MLN0002 TAK-390MR	TAK-875 MLN9708 TAK-700
EM ¹	新興国市場においては、SYR-322、TAK-491、MEPACT、TAK-375、TAK-390MR、DAXAS、SGN-35などの化合物を上市予定			
	既に承認されたものは赤字で表示 ¹ 新興国市場、 ² カルシウム拮抗剤、 ³ ピオグリタゾン(アクトス)、 ⁴ メホルミン、 ⁵ クロルタリドン *Amgen社の品目も含めて、導入品のいくつかは、各会社の開示ポリシーにより非開示			自社品 導入品

6

武田薬品工業株式会社

研究開発の意義と理念



意義

タケダは、患者さんのアンメットメディカルニーズに応えるために、研究開発資源を投入し、革新的な医薬品の創出に挑戦し続けます

理念

患者さんのアンメットメディカルニーズに応える医薬品を提供することで、医薬品業界のリーダーとしての使命を果たします

成長の源泉である研究開発組織を変革し、業界トップレベルの研究開発生産性を目指します

7

武田薬品工業株式会社

将来見通しに関する注意事項

本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。

それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。リスクや不確実性は、特に製品に関連した見通し情報に存在します。製品のリスク、不確実性には、技術的進歩、特許の競合他社による獲得、臨床試験の完了、製品の安全性ならびに効果に関するクレームや懸念、規制当局からの承認取得、国内外の医療保険制度改革、医療費抑制への傾向、国内外の事業に影響を与える政府の法規制、新製品開発に付随する課題などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

また、承認済み製品に関しては、製造およびマーケティングのリスクがあり、需要を満たす製造能力を欠く状況、原材料の入手困難、市場の需要が得られない場合などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正を行う義務を負うものではありません。



武田薬品工業株式会社